令和６年４月３日

令和６年度　研究全体計画

学校教育目標

地域とつながり　豊かな心と言葉で　自ら学ぶ児童の育成

研究主題

自ら学びに向かう児童の育成

～振り返りによる学びの自覚化を通して～

【目指す児童像】
・目標に向かって、何度も粘り強く繰り返し取り組むことができる児童
・自ら進んで考えを伝えることができる児童
・異なる考えを参考にして、新たなことに挑戦することができる児童

【府南学園で育成したい資質・能力】

①言語能力　②情報活用能力　③問題発見・解決能力

【主題設定の理由】

（１）学習指導要領から

「子供たちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすること」が求められている。

（２）昨年度までの児童実態から

本校児童は、フレームリーディングを活用した読解を行ってきたことで、学習材を自分なりに読むことができている。今まで学習してきた読みのフレームをもとに、自分なりに課題を解決しようとしたり、友達と話し合いをしながら学習を進めようとしたりしている姿が見られる。

昨年度の本校児童の課題（教師の見取りによる）は、大きく２つ。１つ目は、話し合いをする際、学びの深まりが見られなかったり、話し合いを踏まえて自分の意見を更新するところまでいかなかったりしたこと、２つ目は、フレームの定着が不十分であることである。１つ目については、他者と学ぶこと、協働することの良さを感じてはいるが、友達の意見を聞くだけで終わってしまったり、自分の意見をただ発表するだけで終わってしまったりする児童の姿が見られた。２つ目については、単元末に振り返った有効だったフレームを使って自分の考えを構築している児童もいるが、次の単元で、既習のフレームを使って考えることが難しく、学んだことを次に生かせていない姿が見られたことである。

以上のことからフレームを活用することにどのような意義があるのか振り返りによって児童に実感させ、自ら学習に取り組むことができるようにする必要があるといえる。

【自ら学びに向かう児童を育成するには】

仮説：年間を通して、対話後の振り返り、授業後の振り返り、単元末の振り返りの３つの振り返りを行う。単元末の振り返りでは活用できるフレームを明確にすることで、児童は次の単元で活用できるフレームや学習活動を考えることができる。対話後の振り返りや授業後の振り返りでは、児童は自らの学習活動を俯瞰し、次の学習につなげ、フレームを獲得することができる。そのような学習を積み重ねることで、児童は学びの手応えを実感し、自ら学習に取り組むことができる、と考えられる。

【研究方法】

・PDCA サイクルに基づき、授業実践と理論研修、模擬授業やワークショップ等を通して研究を行う。
・提案授業は次の流れで行う。
P 指導案検討→D 授業参観→C 事後協議→A 課題を踏まえて次回の提案授業へ。

【取り組み】

① 獲得したフレームを掲示し、いつでも振り返られるようにする。
② 課題について考えたことを対話し、自分の考えを構築できるようにする。
③ 単元の終末に、単元全体を振り返りの時間を設け、有効だったフレームや学習方法を明確にする。

【検証方法】

・以下の３点を基に、年間の研究結果の考察を行う。

① フレームを活用する児童の姿の見取り
　・年間を通して、読みの学習の単元始めに児童から出てくるフレームの定着について、初発の感想を基に見取る。

② 対話や振り返りについての児童の変容の見取り
　・最初に学習する学習材と１２月の学習材で対話や振り返りについて児童の変容を見取る。

③ 児童アンケート
　・i-chech から抜粋した質問、本校の取り組みについての質問を４月と１０月（物語、説明文学習後）に実施する。

④ 府中市一斉学習調査（１２月実施）
　・府中市一斉学習調査の「読むこと」の領域の数値について、目標値と校内平均値を比較する。